

大切なことは喜ぶ姿で伝わる

主任司祭 高木 健次

10年くらい前、ある神父様の巡礼ツアーに混ぜてもらい聖地に連れて行っていただいたことがあります。その時エルサレムの嘆きの壁の所で、ユダヤ教のバルミツバを祝う一行が次々にやってきて式を行うのを見ることができました。バルミツバとはユダヤ教の成人式のようなもので、13歳の男子がみんなの前で聖書の一節を朗誦することで、一人前のユダヤ教徒になったことを示すという意味があるそうです。緊張したような少年を真ん中にした男性の一団、きつとお父さんや親類のおじさんたちだと見受けましたが、彼らが歌いながら、嘆きの壁に隣接した会堂にやって来ます。そこで少年が大きな巻物のヘブライ語の聖書を朗読します。終わったたら一行は会堂の外の広場の仕切りの向こう、女性たちが待つている所に向かいます。女性たちの中には少年のお母さんもいるのです。少年がやってきたら女性たちは独特の奇声をあげながら、飴を周囲にばらまいていました。恥ずかしそうに微笑む少年以外、この行事に参加している大人たちは皆声を出し体を動か

し、全身で喜びを表していました。その日はこの式を行う一団が何組も来て、この光景が繰り返されていきました。私はその式の様子、特に大人たちの姿にとっても感動しました。このバルミツバを行った少年たちは一所懸命に練習して聖書を上手に朗誦できたこと以上に、大人たちが自分のことで喜んでいく様子によって、自分がこの共同体の一員になったのだと感じたことでしょう。私を連れて行ってくれた神父様も同じ思いでこの光景を見ていたようで、二人でひとしきり感想を語り合ったのを覚えています。私たちの念頭には、自分たちの教会の洗礼式、初聖体式、堅信式がありました。秘跡はどのような形でも信仰をもって滞りなく行われれば有効ですが、その意味、重大さは周りの人の様子から、特に子供たちにとっては親や周りの大人の様子からくみ取られていくもので、こうしたことが知識の伝達以前の根本的な信仰教育ではないかと思えます。私たちの教会もこうした機会に、コロナ禍ですので工夫が必要ですが、精いっぱい喜びを表せればよいと思います。